



平成30年8月1日
第 35 号

発行所
青森県立青森高等学校同窓会
事務局
青森県立青森高等学校渉外部内
〒030-0945
青森市桜川8-1-2
TEL (017) 742-2411
FAX (017) 742-6074



文武両道の トップリーダー校を目指して

同窓会会長 柳谷章二

今春四月下旬、東京同窓会会員十数名の方々が、十年前に東京同窓会創立三十周年を記念して、青森高校に寄贈植樹された桜の成長を視察と言う目的で、母校を訪問されました。

当日は校長先生外、地元同窓会の皆さん方も同席されて満開の桜の下で、フルート演奏を鑑賞しながらお花見弁当を食べ懇談致しました。東京同窓会は今年も五月上野精養軒で、四百人に近い同窓生が参加され、会場ハチ切れんばかりの賑わいの懇親会でした。そして特筆したいのは、東京同窓会会員の各同好会（あくぐ会、ゴルフ会、書道の会）の報告活動の写真や会員の作品展示が併催されており、年間を通しての定期的な会員の交流がなされている事象の印象を深く感じました。そして今年創立四十周年との事で、新しく合唱部が誕生し、その美声による青森中学校校歌、青森高等女学校校歌、そして青森高等学校校歌を拝聴し、感涙した所です。

小生、同窓会会長に就任して三年目になります。就任以来いつも自問している事は、同窓会が同窓生の皆さんにどんな役立ちになっているのかという事です。主たる事業は親睦会の開催、会報の発行、会員名簿の発行とありますが、それらを通して会員間の交流が進んだり、会員の交友関係の復活や新しい出会いがなされ、卒業後の皆さん方に少しでも役立つ切掛になっているのだからかと。青森高校に入學し、在学時は文武両道の方針の下鍛えられながら悩める青春を共にした同輩達、時を経て壮年、老年（熟年）域へと進む中、旧友との語らい、交流

はどんなにか自分を励まして前に押し出してくれた事かと感謝に胸が熱くなります。同窓会懇親会に加えて、同好趣味の会が色々と発足する等、懇親会以外に交流を図る場を皆さんと一緒に考えさせて戴きたいと思えます。（既にゴルフ無限会、英文学を親しむ会が活動していますので、興味のある方は是非ご参加下さい。）

扱て、本校は来る二〇二〇年に創立百二十周年を迎えます。創立以来数多くの優秀な人材を輩出して来た母校です。そしてまた、今後共に青森県下のトップリーダー校としての役割を担って行く事になっていきます。

現在、文科省からの県内唯一のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定と、加えてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けて教育実習が行われています。そこで創立百二十周年記念事業として、「人財育成基金の創設」と、老朽化甚だしい「弓道場の新築」を計画し、今夏より後援会、父母教師会と同窓会が一体となって協賛会を立ち上げ募金活動をスタートさせる事としました。同窓生の皆さんの母校への想いや期待を、数多く寄せて戴いて事業を成功させたいものと念じている所です。

又、募金活動を広げて行く中で、同窓生間の交友関係復活や新しい出会いが誕生してくれるのではと大いに期待しています。同窓生の皆さんの絶大なご協賛をお願い致します。



重点校としての役割等

校長 穴倉慎次

日頃より、柳谷会長をはじめ同窓会員の皆様方からは、本校の教育活動に対し御理解と絶大な御支援を頂戴し、心から感謝申し上げます。特に二年後に迫ってまいりました本校創立百二十周年記念に向け同窓会が中心となって本校のさらなる発展を願う記念事業を計画し、その成功に向け本格的に募金活動を始めたことにつきまして厚く御礼申し上げます。記念事業には二つの大きな柱がございます。グローバル人材育成のための基金の創設と二十年近くも仮設の弓道場で練習してきた弓道部のために弓道場の新設を掲げていただきました。この二項目は本校教職員並びに関係生徒達とともに切望していることとございます。したがって、多く同窓生の皆様方や法人の方々の御賛同を心から願っております。

さて、平成二十九年七月に青森県教育委員会には、青森県立高等学校教育改革推進計画第一期実施計画において、本校を「重点校」と定めました。重点校とは「生徒数が急激に減少する中にある中、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜制の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人材の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担い、一定の規模を有する学校」と定義し、本校の他に五所川原高校、弘前高校、三本木高校、田名部高校、そして八戸高校が指定されました。それを受け今年度本校では、重点校として次に挙げる六つの事柄において他校と連携して取り組むこととしております。一つ目は、医学部進学に向けた六日間及ぶプログラムを開催します。二つ目は、東大への進学志望生を対象に合同合宿を実施します。三つ目は、即興型英語ディベート研修会を二日間にわたって実施し、英語で議論し、相手を論破する英語力を備えた人財を育成します。四つ目は、弘前大学医学部附属病院が主催し県健康福祉部医療業務課が共催する外科手術体験セミナーを本校で実施します。五つ目は、SGHでこれまで取り組んできた模擬国連、英語による表現探究、バーチャルユースフォーラムなどの普及活動を行います。六つ目は、本校の教育目標に基づいた授業や学校行事（主体的・対話的深い学びと探究型学習）を公開し他校の教職員の授業改善や他校生徒の学習改善・創造力の育成に資する機会を設けます。

このように本校が実施する教育活動に他校の教職員や生徒も参加したり、本校の学習成果が広く共有され青森県全体の普通科教育の質を確保し向上を図ることが重点校としての役割となっており、そのことで本校がなお一層発展できるものと考えております。

次に、私が校長として先生方や生徒たちに繰り返し話していることを紹介させていただきます。先生方に対しては「生徒がうれしき時にはともに喜び、生徒が悲しい時にはともに涙する。そして、最高の授業で生徒からの信頼を得てください。先生方から必ずできます。先生方は県内屈指の方々ですから。」と折に触れ激励しております。生徒たちに対しては「後輩たちよ。この学び舎で常に高い志を掲げ、勉強と部活動に一心不乱に励み、友と語らい友情を育み、お互い切磋琢磨し、青春を謳歌せよ。そして、若い時から名誉を守れ。」と四月からもう三度も訴えております。

最後に野球の話になります。全国高校野球選手権大会で毎年のように上位に進出する強豪チームが多く、野球レベルの高い青森県において、私は平成十三年度と二十六年度の二度に渡って青森県予選決勝の舞台で我が青高野球部をスタンドから応援する機会に恵まれました。今年度は、春の大会でベスト4の快挙を成し遂げ、またあの時の感動と興奮をもたらしてくれることを心から願っております。

同窓会の皆様方、どうか今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

同窓生の皆さんの絶大なご協賛をお願い致します。

創立百二十周年記念に向けて

御挨拶



青高創立百二十周年
記念事業協賛会
会長 和田 文夫

日頃は、青森高校に対しいろいろと御支援を頂き、誠に有難うございます。

わが校は、青森県の進学校として、創立以来幾多の著名人を輩出し社会貢献をして参り、さらに近年には、文部科学省からSGH(スーパーグローバルハイスクール)及びSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、県内に

母校創立百二十周年記念事業への ご協賛のお願い



青高創立百二十周年
記念事業協賛会
実行委員長 沼田 廣

青森高校は、二年後の二〇二〇年九月に目度度創立百二十周年を迎えます。その長い歴史の中で、幾多の有為の人財を世に送り出し地域や国家に貢献してまいりました。

二十一世紀においては、本校の良き伝統である文武両道に優れかつグローバルにもローカルにも通用するいわゆるグローバルな人財の育成が強く望まれています。その為に同窓会、後援会、父母教師会が相集い、母校の施設整備や教育的諸活動に支援をしていきたいと検討を重ねてまいりました。

その結果、「武」については、弓道場の新設を、「文」については、グローバル人財育成基金を創設することいたしました。弓道場は創立百周年記念事業として全天候型のスポーツ施設「無限ドーム」を建設した際、現在地に移設されましたが、プレハブの仮設のような仕様でしたので傷みもひどくなっており、射場の床は、前傾し、的場までの矢道も基準より短く満足な練習もできない状況ですが、弓道部は、昨年、県の春季大会男子団体優勝の他、毎

おける重要校としての任務が益々大きくなって参りました。

この度、創立百二十周年の節目にあたり、同窓会、後援会、父母の会、学校当局が相談の結果、一つには人財育成のための事業と、もう一方では新校舎改築工事の際、移転を余儀なくされ、現在仮建物で稽古をしている弓道部員の為に、弓道場の新築をしようという二つの案がまとまりました。

そして人財育成については、後援会の事業として、次年度より「人財育成基金」を設け対応していく事と、弓道場の方は寄付金を募り新築しようという事に方針が決まりました。時節柄、御負担頂くのは誠に気の重い申し出ではありますが、なにとぞ皆様の御協力を得て目的を達成致したいと思っておりますので、よろしく御願い申し上げます。

年入賞する好成績をあげています。次にグローバル人財育成基金の創設ですが、これまで本校は、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)に県内唯一の指定校として認定されておりました。昨年から更にスーパーサイエンスハイスクール(SSH)にも指定されたのを機に、国内外で活躍する科学者を講師に招聘しての講演会や指導・助言を通じて科学分野でグローバルに活躍する人財育成への協力をしていくものです。但し、この基金の創設は、税控除の対象となりませんので、後援会の年度事業として次年度より予算設定することになっております。趣意書と振込用紙が間もなく届くと思っておりますので、ご理解・ご協力のほどよろしく御願い申し上げます。

記念事業と募金計画の概要は次の通りです。

〔記念事業計画〕

- ・青森高校弓道場新設 四千七百三十万円
- ・募金募集費用 三百五十万円

〔募金計画〕

- ・募金目標額 五千八十万円
- ・募金額 同窓会員 一口 五千円(出来れば二口以上希望)
- ・法 人 一口 三万円(出来れば二口以上希望)
- ・一般協賛者 随意
- ・期 間 二〇一八年八月一日～二〇一九年七月三十一日
- ・払込方法 銀行振込、郵便振込、コンビニ振込による寄付
- ・問合せ先 青森県立青森高等学校

創立百二十周年記念事業協賛会事務局
TEL 〇一七-七四二-二四一(代表)

統合青高3回生

春季県大会ベスト4の底力を 名曲中の名曲を再び甲子園で!

創立百二十周年に華をそえる
母校ナインに

工 藤 健 二
(昭和28年3月卒業)

今を去ること、昭和二十六年北奥羽大会決勝戦で延長二十五回を制し、わが青高野球部は同期六人がスタメンに登録しての甲子園出場であった。グラウンドで乱舞したあの西日が眩しい。

甲子園二年連続出場の際は、応援団五人が校費で全費用を負担しての「甲子園派遣」となり、その一人に私は選ばれていたのである。残念ながら、県予選三回戦で敗退し、幻の甲子園となったが、青高応援団の一員だったことで「甲子園」の三文字で心身は彩られ「わが青春」に悔いなしと思っている現在である。

爾来八十有余年、母校創立百周年に向けて硬式野球部を「甲子園に送ろう」と同窓生に呼びかけ、私設応援団「三四郎クラブ」を誕生させた。現時点の会員数は二百名弱となり、自称応援団長(正式応援団長は甲子園出場決定時)となっている。

県内外の公式戦には欠かさず帽子(笠)とグランドコートを着用し、メガホンを携えての出現(別掲朝日新聞記事参照)。

こあしえん
「5040」掲げ84歳OBが応援
青森側スタンド

青森の応援席で「5040」とテープで書いた笠をかぶって声を張り上げていたのは同校OBの工藤健二さん(84)。

手に握るメガホンや上着の背中にも「5040」の数字。「5040(甲子園)です。三十年近く手作りしています」と笑う。

同校の応援団員だった一九五一年夏、野球部が甲子園に出たが、「自分はお金がなくて行けなかった。その時の悔しさを晴らすため、毎年テープを切り貼りして「5040」を作り、県大会に持参している。

最近さらには欲が出てきて、背中の「5040」の後に「1」を加えた。「1勝の意味だ。応援をするようになったから同校の甲子園出場はまだないが、「甲子園に出るだけでなく、勝つところも見たい。夏に向けて頑張っている」と後輩たちにエールを送っていた。(板倉大地 辰成三十年五月二十七日 朝日新聞より)

東北大会二年連続出場のあの日も懐かしい。

野球の「応援」と云うよりは、若きナインお互いの鼓舞しあう「エール」から「若さ」を貫っているのが現実である。

そして、五回終了時のグラウンド整備中に配られる「父母会」の特製紙コップに込められた父母のいじらしさを感じてのコーヒーと飴玉の美味しさは、エネルギーが補給される感謝感激のひと時でもある。

試合終了時の勝利を讃える校歌斉唱。青高二年時に制定された「東嶺岩木嶺八甲田山」の歌い出しで青春が甦り、悔いナシの時分秒に、歓喜溢れる少年に喝采。

青森高校百年史によると、青森市民を対象とした「近衛秀磨率いる管弦楽団の演奏」憲法記念演奏会(昭和二十六年五月二日)のプログラムに、讃歌「無限の象徴」と印刷されている。

管弦楽的な手法：芸術性：母校に対して抱いている誇りを高揚：（一）回生川原田満有氏「百年史」わが心のうた（より）

そして「無限の象徴」を、初めて歌ったのは私たちだったらしい（佐々木元東奥日報社長談）。続けて、夏の甲子園で校歌「無限の象徴」を奏楽、新入生歓迎の挨拶に代えて「無限の象徴」を歌う等々の逸話が「百年史」を是非是非読んで欲しい。

今年、東北春季大会には出場出来なかったが、ナイン諸生には、校歌「無限の象徴」に寄せる同窓生（市民、県民、人間）、そして親御さんへの感謝の念を肝に銘じ、早ければ来年、遅くとも再来年の母校創立百二十周年に華を添え、「青高校歌」を五十有余年振りの甲子園の空に轟かせる絶好のチャンス到来と自覚して欲しい。甲子園で「東嶺」を歌いたいです。

甲子園での一勝を「幻から実」に進化させ、甲子園で雄叫びしながら、球場いっぱい響かせている「老翁」が一人いた。



◆◆◆◆◆ 統合青高27回生 ◆◆◆◆◆

還暦

小林直人(60歳)

(昭和52年3月卒業)

「青春や 暦は還り 朱夏となり」

中国の五行説によると人生を青春、朱夏、白秋、玄冬と四つの時期に分けます。何歳から何歳までがどの時期かは様々な説がありますが、青春の次の朱夏は人生で最も盛んな時期であり、六十歳は朱夏が終わったのには間違いないでしょう。六十歳は一応白秋としておきます（白秋の詩が好きなので）。

ところが、還暦になってやっとな人の仲間入りだね、はなれた小僧卒業だよ、ね、という表現もあります。六十歳は一回りして最初に戻るのではなくて一段上のステージに上がるといいます。青春を終えて朱夏をやっと迎えるのです。そうか、それで朱いチャンチャンコを着るのか（私見です）。確かに自身を思えば、記憶力や体力はも

ちろん〇〇力等は時を越してきました。が、判断力や調整力は円熟を迎えてきています（思いがりか）。むしろ怖いくらいで凄みさえあると他人に言われま（誰が言うか）。これも周囲の人間が年齢や風貌・地位でそういうふうに扱ってくれるからであり、若い頃のように無理をしなくてもスムーズに物事が進みます。他人の話にもよく耳を傾けるようになったし（耳が遠くなったから）、我満もできるようなったし

（反応が鈍くなっただけ）、かといって大事な場面では筋を通せるようになりました（周りが我慢してるだけ）。これで定年退職はもったいない。ここからが男盛り。

外見は髪の毛がまだら模様になったり頭が光ってきたり顔に皺が増えたりシミが出来たり腹が出たり足が短かったり（これは最初から）で若い頃とは別人のようになりました。実際にあった話ですが、高校卒業して三十年ぶりに東京同期会へ初めて出席したときのこと。受付をすませて同級生のテーブルに行く

と、組幹事の同級生がいたので「やあ、久しぶり」「おお、三十年ぶりか？」と握手して着席して飲み始めました。同じテーブルにいた同級生に似た人々もこちらをちら見して気にしているようです。すると彼はそわそわ時計を気にして、入口を何回も見ています。「どうしたの？」と彼に聞くといやー、今日は久しぶりに小林が

来るんだよ！僕は目点になりました。「へ！俺だけだ」すると彼は怒り出し「嘘つけ！小林ならばもつと瘦せてて、ハンサムだったはずだ」（いやいや、それほどでもない）「だったら今まで誰と話してたんだ！」「違う組の奴が紛れ込んできたと思っけて調子合わせてたんだ。お前偽物だよな！」

話し始めると段々あの頃と変わらぬい雰囲気を出してきて仕事も同じです。周りの同級生も変わり果てた姿ですが、酔ってくる視界がぼやけてきて、皺もまだら模様も気にならなくなり昔のまんまとなります。彼のまったく無くなった髪の毛さえもふさふさと生え出してロン毛に見えてきます。話題こそ当時は、勉強、テスト、部活、デカシヨ（嘘）、アイドル、桜田淳子、岩崎宏美、女の子だったのが、今は政治、経済、株価（嘘）、世界平和（大嘘）、持病、女の子（これは同じか！）となりました。

が、まったく四十年前にタイムスリップしてしまいます。もつと言うとだんだん幼く、無邪気になっていきます（赤ちゃん還りか）。三つ子の魂百までもと言いますが、疾風怒涛の思春期のあたりから本質的に人間は変わらないのではないかと思えます。「人生は 永久（とわ）にと続く 青き春」

◆◆◆◆◆ 統合青高37回生 ◆◆◆◆◆

「邂逅」

そして青森高校 卒業生としての誇り

堀越 勇 平

(昭和62年3月卒業)

我々三十七回生は、今年丁度五十歳前後の年齢です。生まれたのは、学生運動真っ盛り、青森が十勝沖地震とい



37回生同窓会パンフレット表紙

う大災害に見舞われ、メキシコオリンピックでは多くの日本人選手の活躍に歓喜した年。同学生年の有名人では俳優・歌手の福山雅治さん、女優の鈴木京香さん、タレントの菊池桃子さん等々。

青森高校に入学したのは昭和五十九年。校舎は勿論建替え前の古い校舎、校内は土足で、男女比は3...1、十クラス四百五十名を超える大所帯。高校を卒業した頃は、バブル景気に向けてまっしぐら、就職は正に超売り手市場という時代でした。

今から七年前の平成二十三年、恒例の同窓会懇親会の幹事学年となりました。数年前から一部の同期生が中心となり、一〜二学年上の先輩方に教えを乞いながら、同窓会懇親会成功に向けて準備をし始め、徐々に同期との再会の輪が広がっていきました。ところが本番まであと五カ月と迫った三月十一日、あの東日本大震災の悲劇が日本を襲う。同窓会懇親会をやるべきか否か？そんな声もあったものの、こういう時だからこそ同窓会懇親会をやる！！と一致団結した三十七回生。そして八月二十日（土）、百五十名を超える同期の仲間が集結してくれました。開催テーマは「邂逅（かいこう）」。まさに高校時代に思いがけなく出会った仲間が、四半世紀を経て再び集い、想いを一つにし、同窓会懇親会を大成功に導いてくれました。

同窓会幹事学年を経験させていただいたことにより、諸先輩方と交流させ

ていただくという貴重な経験をさせていただきました。その時に感じたのが、青森高校への熱い思い、そして歴史と伝統のある青森高校卒業生としての誇りです。

今我々の同期生は様々な業界で活躍している、正に「責任世代」。これからも「邂逅」を大事にしながら、青森高校卒業生としての誇りを忘れずに頑張つて参ります。



青森高校同窓会総会

青森高校ゴルフ同好会 「無限会」

■ 本会について

本会は今年で42周年を迎えた同窓生で構成するゴルフ愛好会です。

活動概要は下記のとおりですが、常に和気あいあいと楽しいゴルフを目指し、80歳を超えるベテランメンバーも若い初心者メンバーも一緒になって、同窓生同士の旧知を深めたり、好プレーや珍プレーに感心したり笑ったりしながら年5回のコン

ペを楽しんでいます。

尚、今年度は新入会員の方は年会費無料の特典が与えられているほか、卒業生だけでなく現職・元職を問わず青森高校教職員の方々も会員になれるようになりましたので教職員の皆様も是非ご参加ください。成田昌造前校長先生も早速入会され、プレーを楽しんでいただいています。

■ 活動の概要

- 1 会 長 19回卒業 沼田 廣
- 2 メンバーの条件
本校同窓生及び**本校教職員(現職・元職)**であること
4月募集・随時入会可能
他校生でもゲストとしてオブザーバー参加可能
- 3 活動場所 青森カントリークラブ
- 4 活動回数 5・6・7・9・10月第2日曜日(5回)
毎回6～8組(24～32人)が参加
8月に行われる3校(青高・八高・弘高)対抗戦への積極的参加。例年3校合計約140人ものゴルフ愛好家が集まり、表彰式では賞品も数も多く大変盛り上がりします。
懇親会(10月)の実施
- 5 活動方法 ダブルペリア方式によるストロークプレー
1～5位・BG賞・BB賞・飛び賞・参加賞
- 6 現在の会員数 55名
- 7 年会費 3,000円(事務費)

- 8 例会参加費 2,000円
全て賞品(日専連ギフトカード)として還元
- 9 事務局 19回卒業 池田 好明
青森市筒井字八ツ橋156 Tel/Fax 017-738-6197



第2回例会(平成30年6月10日 青森CC) 後列右から3人目が成田前校長先生

地区同窓会ご案内

東京青高同窓会	会 長 太 田 紀 久 副会長 古 跡 隆 一 事務局 福 田 裕 一	副会長 成 田 龍 信 副会長 松 山 正 弘 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町2-17-3-203	副会長 福 田 裕 一 副会長 葛 西 聡 〒090-4717-1674	副会長 長谷川 正	
県庁無限会	会 長 原 田 啓 一	〒675-0111 加古川市平岡町二俣51-3 ☎0794-36-3603			
青森高校西日本同窓会	庶務担当 小 林 正 彦	〒980-0813 仙台市青葉区米ヶ袋3-4-33 ☎022-267-5757			
仙台青中青高女青高会	事務局 竹 内 廣				
弘前青高会	会 長 齋 藤 悦 朗 副会長 内 田 敦 子 事務局 小 野 知 正	副会長 星 克 行 〒036-8666 弘前市清野袋5-5-1	副会長 佐 藤 義 光 弘前航空電子(株)内	☎0172-33-3111	
平内青高同窓会	事務局 竹 内 正 美	〒039-3321 東津軽郡平内町小湊字小湊19 ☎017-755-3973			
青高むつ下北同窓会	会 長 杉 山 幹 和 事務局 工 藤 彦 彦	副会長 飛 内 美津男 〒035-0076 むつ市旭町10-33	副会長 中 村 正 志 ☎0175-34-9786	副会長 伊 藤 道 郎	
青高岩手県地区同窓会	会 長 山 谷 仁 雅 事務局 藤 原 雅 夫	副会長 藤 原 雅 夫 〒028-3304 岩手県紫波郡紫波町二日町字山子25-2 ☎019-672-4401			

平成29年度青森高校同窓会庶務報告

年 月 日	項 目	年 月 日	項 目	年 月 日	項 目
平成29年 6月6日(火)	同窓会会計監査	8月12日(土)	同窓会総会・懇親会	11月27日(月)	第2回同窓会運営委員会
6月21日(水)	第1回同窓会運営委員会	10月12日(木)	同窓会講演会		第2回同窓会役員会
6月24日(土)	第1回同窓会役員会	10月13日(金)	講師 第24回生 吉原秀一氏	平成30年	
7月8日(土)	第1回同窓会合同実行委員会	10月14日(土)	大館市立総合病院院長	2月28日(水)	同窓会入会式
8月1日(火)	岩手県地区同窓会	10月25日(水)	弘前 青高会	3月1日(木)	卒業証書授与式
	西日本地区同窓会	11月14日(火)	むつ下北同窓会	5月13日(日)	東京青高同窓会
	会報34号発行		第2回同窓会合同実行委員会		
			同窓会懇親会の会計監査		

寄 付 者 名 簿

区 分	団 体 ・ 個 人	金 額	用 途
一般・ 寄付金	青森高校バスケットボール部OB会	150,000円	バスケットボール部活動資金
	甲田クラブ	100,000円	硬式野球部活動資金
	青森高校10回生 館岡貞子氏	4,000,000円	グランドピアノ等購入資金
	青森高校68回生	5,088円	青森高校活動資金
	青森高校68回生	55,477円	青森高校活動資金
	青森高校バレーボール部同窓会	40,000円	バレーボール部活動資金
	三青クラブ	20,000円	卓球部活動資金
	近藤信義氏	300,000円	図書購入費
	三四郎クラブ	200,000円	硬式野球部活動資金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	自然科学部化学班教育文化奨励金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	将棋部教育文化奨励金
	日本教育公務員弘済会青森支部	30,000円	放送委員会教育文化奨励金
	青森高校ボート部OB会	100,000円	ボート部活動資金
	合 計		5,060,565円

平成30年3月卒業生の

進路状況

進路指導主事

笠井 敦 司

本年3月に卒業した生徒の進路状況についてお知らせいたします。

区分		入試年度	
		30 2018	29 2017
国立大学	出願数	321	291
	合格数	157	131
公立大学	出願数	45	48
	合格数	21	25
国公立出願数 計		366	339
*国公立合格数 計		178	156
私立大学	出願数	362	464
	合格数	114	163
文科省所管外	出願数	8	2
	合格数	3	2
国公立短大	出願数	3	3
	合格数	2	3
私立短大	出願数		5
	合格数		2
専修各種等	出願数	2	4
	合格数	2	4

■国公立大学合格状況について

国公立	2018年入試			2017年入試		
	H30卒	過年度	計	H29卒	過年度	計
北海道大	2	6	8	9	2	11
弘前大	49	8	57	54	8	62
岩手大	13	1	14	9	1	10
東北大	27	4	31	7	6	13
山形大	3	1	4	6		6
筑波大	5		5	5	1	6
埼玉大	4	1	5	5	2	7
千葉大	7		7	5		5
東京大	2	1	3	1	1	2
東京外大	3		3			
東京学芸大	3		3			
東京工業大	2		2			
一橋大				1	1	2
横浜国立大	2		2	3		3
横浜市立大				4		4
京都大					1	1
大阪大	1		1	2		2
神戸大				2		2
その他	55	6	61	43	10	53
合計	178	28	206	156	33	189

国立・公立あわせて現役生はのべ366名が受験し、178名が合格しました。東大・京大をはじめとする難関10大学には34名が合格しました（昨年度は

22名）。国公立医学部医学科の合格は現浪併せて19名でした。東北大医学部合格者数4名は全国屈指の結果です。

また推薦・AO入試での合格は31名であり、東北大学AOは8名、弘前大学医学部は10名でした。

■私立大学合格状況について

合格者は145名でした。難関私立大（早慶理科大、MARCH、関関同立）の合格者数は68名に上りました。

私立	2018年入試			2017年入試		
	H30卒	過年度	計	H29卒	過年度	計
早稲田大	8	4	12	9	3	12
慶應義塾大	6	3	9	4		4
明治大	3	3	6	13	8	21
青山学院大	2		2	1		1
立教大				5	2	7
中央大	19	1	20	8	2	10
法政大	4	3	7	9	4	13
学習院大				1		1
日本大	3	1	4	5	1	6
東洋大	5	1	6	6	1	7
駒澤大	2	1	3	1	1	2
専修大	1		1	1		1
津田塾大	1		1	4	2	6
東京理大	4	2	6	8	5	13
明治学院大				5		5
同志社大	1	2	3	2		2
立命館大		3	3	6	4	10
関西大				1		1
東北学院大	2		2	1	1	2
東北医薬大	4	1	5	6	1	7
自治医大	1		1		1	1
その他	48	6	54	67	23	90
私立大学計	114	31	145	163	59	222



■総評

68回生は学習への取り組み姿勢が真摯で、集中力もあり、最後まで粘り強く努力する学年でした。先生方に積極的に質問するなど、謙虚にそして熱心に勉学に励んでいました。そうした妥

協を許さない態度が難関大学の合格実績に反映しています。特に東北大学は昨年東大・京大と並んで指定国立大学に選定されたこともあり、その人気はいまや全国区、関東はもちろん北陸東海からの受験者が増え、入試は激化しています。合格者に占める東北地区出身者の割合がついに関東を下回ってしまったのです。その中であって現浪合わせて合格31名は、大健闘と言えます。これは全国ではトップ10の実績です。

2年後に新しい選抜方式が導入されますが、その前段階として大学によっては昨年度、今年度から選抜方式を変更しています。具体的には、面接などで学ぶ意欲や目的意識、論理的思考力をはかるものです。知識を使って考え、答えのない課題を解決する本当の学力が求められるのです。

医学部	2018年入試			2017年入試		
	H30卒	過年度	計	H29卒	過年度	計
弘前大	10	3	13	15	2	17
東北大	3	1	4	1	1	2
富山大				1		1
北海道大		2	2			
国公立計	13	6	19	17	3	20
東京医大					1	1
東京女子医大		1	1			
自治医大	1		1		1	1
東北大医薬		2	2			
私立計	1	3	4		2	2

薬学部	2018年入試			2017年入試		
	H30卒	過年度	計	H29卒	過年度	計
北海道大				2		2
富山大				1		1
東北大	1	1	2			
国公立計	1	1	2	3		3
慶応大				1		1
青森大				2	1	3
東北医薬大	4		4	6	1	7
北海道薬大				2		2
北里大				1	1	2
明治薬大	1		1	1		1
国際医療大					1	1
北海道医療大					1	1
東京薬大	1		1			
星薬大	1		1			
東京理大	1		1			
私立計	8	0	8	13	5	18

部 活 動 の 記 録

平成 29 年度

Table with columns: 部活名, 大会名等/種目, 成績, 氏名(学年). Rows include categories like ボート部, 剣道部, サッカー部, ソフトボール部, テニス部, ハンドボール部, 弓道部, 空手道部, ラグビー部, 卓球部, and 文化部.

文化部

Table with columns: 部・委員会名, 大会・コンクール名/種目, 成績, 氏名(学年). Rows include 高等学校の部, 音楽部, 箏曲部, and 生活科学部.

運動部

Table with columns: 部活名, 大会名等/種目, 成績, 氏名(学年). Rows include categories like 陸上競技部, 水泳部, and 文化部.

青森高校同窓会・総会

平成30年度

幹事Ⅱ第44回生(平成6年卒)

One 4 all,

All 4 one



8月12日(日) 於=ホテル青森 青森市堤町1丁目1-23

総会16時より／懇親会17時より(受付16時30分から) 会費=5,000円(懇親会費)

お問い合わせ先=TEL 017-742-2636(稲見建築設計事務所内 稲見公介)



編集後記

現役生のために、労を惜みず働きかけてくださっている同窓生の姿を目にするたび、本校は同窓生の深い愛校心とやさしさに支えられているのだと実感します。会報を通じて、同窓生の思いを多くの方々に届けていきたいと思ひます。原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。